

第24回

グローバル感染症研究セミナー



2024年1月25日
16:00-17:00

参加登録はこちら

<https://forms.gle/12UZ5qNDEQhLJ2p47>



演者：吉田 秀司 先生

大阪医科薬科大学医学部総合教育講座物理学教室 教授

ストレス下における細菌の翻訳制御機構

生物がストレスに曝されると、多くの遺伝子の発現を制御して生き延びる。例えば、多くの細菌ではストレス下において100Sリボソームを形成することにより翻訳活性を抑制している。100Sリボソームは70Sリボソームの二量体であり、大腸菌やコレラ菌、ペスト菌などのGammaproteobacteriaにおいては、Ribosome modulation factor (RMF) が70Sリボソームに結合することによって形成される。演者らは、このリボソームが不活性化される段階を“Hibernation stage (休眠段階)”と名付け、翻訳サイクルに組み込むことを提唱している。

本セミナーでは、100Sリボソームの生理的意義やRMFなどのストレス応答蛋白の機能と発現制御などについて概説する。また、共同研究「ストレス下におけるピロリ菌の翻訳制御機構解明」の進捗状況を報告する。

世話人 三好 智博
(グローバル感染症研究センター 講師)

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係 (5409)
TEL 097 (586) 5409 E-mail glocal@oita-u.ac.jp